

令和元年度 算数科授業の略案 (3 学年)

月日 (校時)	単元名	教材名
6 月 24 日 (月) 4 校時	暗算	計算のしかたをくふうしよう
本時のねらい ○2 位数同士の減法の計算の仕方を理解し、その暗算をすることができる。		
評価規準 <b>考</b> 数の柔軟な見方を基に暗算による 2 位数同士の減法の計算の仕方を工夫して考え、説明している。(観察・ノート) <b>技</b> 2 位数同士の減法を暗算することができる。(発言・ノート)		
学習過程	学習活動 (○発問・予想される児童の反応)	・留意事項 <b>評価</b>
<b>【導入】</b> <b>10:35</b> (3 分)	○前時の学習のふり返りをペアで伝え合ひましょう。(ぶつぶつタイム) ・2 けた同士のたし算の暗算の方法を説明しました。 ・2 けた同士のたし算の暗算は、数を何十といくつに分けたり、何十とみたりすると「はやく・かんたん・せいかくに」暗算できると分かりました。	・ノートを見返すよう促すことで、前時のふり返りをしやすくする。
<b>【展開】</b> 問題提示 <b>10:38</b> (2 分)  課題把握 ・問いの共有 <b>10:40</b> (3 分) ・見通し  シラバス 言語わざ  解決活動 ・自力解決 <b>10:43</b> (7 分)  ・班学習 <b>10:50</b> (8 分)  ・全体学習 <b>10:58</b> (10 分)  ・考察  まとめ <b>11:08</b> (3 分)	1 問題を読む。 54-38 の暗算のしかたを考えよう。 ○問題を見て、気がついたことや前時の学習とちがうことはどんなことですか。 ・2 けた同士のひき算の問題になっている。・くり下がりのあるひき算の暗算になる  2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2 けた同士のひき算の暗算のしかたを図や言葉を使ってせつ明しよう。</div> ・分けて計算する方法 (さくらんぼの図) を使う ・何十とみる (・頭の中で計算する) ・キーワード: <b>ひく数</b> <b>ひかれる数</b> <b>分ける</b> <b>何十とみる</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><math display="block">\begin{array}{r} 54-38 \\ \swarrow \quad \searrow \\ 30 \qquad 8 \\ 54-30=24 \\ 24-8=16 \quad \text{答え } 16 \end{array}</math></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><math display="block">\begin{array}{r} 54-38 \\ \downarrow \\ 40 \text{ とみる} \\ 54-40=14 \\ 14+2=16 \quad \text{答え } 16 \end{array}</math></div> ・一人学び(7 分) → 班学び(8 分) → 学び合い(10 分) → まとめ(3 分) → 適用問題 (6 分) → ふりかえり(3 分) ・「まず、つぎに・・・」 ・「算数用語を使ってせつ明する」  3 課題を解決する ・自分の考えを、言葉や式を使ってノートに書く ○図や言葉を使って考えましょう。 ・38 を 30 と 8 に分ける。54-30=24、24-8=16 で答えは 16。 ・54 を 50 と 4 に分ける。50-38=12、12+4=16 で答えは 16。 ・54 を 40 と 14、38 を 30 と 8 に分ける。40-30=10、14-8=6。10+6=16 で答えは 16。 ・54 を 40 と 14 に分ける。40-38=2、2+14=16 で答えは 16。 ・38 を 40 とみると、54-40=14。2 多く引いているので、14+2=16 で答えは 16。 ・54 に 4 を足して 58、58-38=20、20-4=16 で答えは 16。  ・班で自分の考えを伝え合う。 ○ノートを見せながら、自分の考えを説明しましょう。  ・ホワイトボードを黒板に掲示し、全体で考えを共有する。 ○同じ求め方や違う求め方、気づいたことを発表しましょう。 ・ひかれる数を分けて十の位から計算するやり方とひく数を分けて十の位から計算するやり方何と何十とみて計算するやり方がある。 ・頭の中で筆算をする時くり下がりを忘れると間違えてしまう。  ○2 けたのひき算の暗算は、どのように計算すると「はやく・かんたん・せいかくに」答えが求められるでしょう。 ・ひかれる数を分けて上の位から計算するとよい。 ・ひく数を分けて、上の位から計算するとよい。 ・ひく数を何十とみると、「はやく・かんたん・せいかくに」暗算できる。  4 本時のまとめをする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2 けた同士のひき算の暗算もひく数を分けたり、何十とみたりすると、「はやく・かんたん・せいかくに」暗算できる。</div>	・2 けた同士のたし算のときと同じように数を分けたり何十と見たりして、工夫して暗算することを確認する。  ・ハンドサインチェックを行い、自力解決の見通しが持てるようにする。 *リーダー  ・自力解決が厳しい児童には、教師や友達に聞くなどするように助言する。  ・机間指導 (赤ペン指導) を行う。  ・困っている児童に対しての班での支援を促す。  ・38 を 40 とみる考えが児童から出ない時は教師から出すようにする。  <b>考</b> 数の柔軟な見方を基に暗算による 2 位数同士の減法の計算の仕方を工夫して考え、説明している。(観察・ノート)
<b>【終末】</b> 適用問題 <b>11:11</b> (6 分) ふりかえり <b>11:17</b> (3 分)	5 適用問題 (①75-49) に取り組む。学習したことを使って考えを説明する。 6 学習したことをふり返る。 ・2 けた同士のひき算は、ひく数やひかれる数を分けて考えたり、何十とみたりすると、かんたんに計算することができることが分かりました。	<b>技</b> 2 位数同士の減法を暗算することができる。(発言・ノート)